

(一財) 自治体国際化協会 ロンドン事務所 マンスリートピック (2016年5月)

【ロンドンに新市長が誕生 ～ 保守党の市長に代わり、労働党のサディーク・カーン候補が当選】

要旨

- ・2016年5月にロンドン市長選が実施され、労働党のサディーク・カーン候補が当選した。
- ・新市長は、両親がパキスタンからの移民で、ロンドン初のイスラム教徒の市長である。選挙戦では、より多くの住宅の建設、公共交通機関の料金凍結、治安対策及び企業支援などを公約していた。
- ・ロンドン市長選と同日に、ロンドン議会選挙も実施された。

2016年5月5日、ロンドン市長選の投票が行われ、労働党のサディーク・カーン候補が当選した。ロンドン市長は、「1999年グレーター・ロンドン・オーソリティー法 (Greater London Authority Act 1999)」によって2000年に設置された。任期は4年である¹。今回は、2008年から2期務めた現職のボリス・ジョンソン氏 (保守党) が再出馬せず、新しい市長を選出する選挙となった。12人が立候補したが、選挙戦は、労働党のカーン候補と保守党のザック・ゴールドスミス候補の事実上の一騎討ちとなった。

ロンドン市長選の投票方法には、「補足投票制度 (Supplementary Vote System)」が使われている。第1ラウンドの開票の結果、カーン候補とゴールドスミス候補が第2ラウンドに残り、最終結果は下記の通りになった。

| | |
|-------------------|--------------------------------|
| サディーク・カーン (労働党) | 1,310,143 票 (56.8%) |
| ザック・ゴールドスミス (保守党) | 994,614 票 (43.2%) ² |

¹ ロンドン市長選の仕組み及び今回の市長選のその他の候補者などについては、2015年10月のマンスリートピック「2016年のロンドン市長選について ～ 現職市長は再出馬せず、新市長が誕生へ」を参照のこと。http://www.jlga.org.uk/jp/monthly_topic/uk_oct_2015_01/

また、ロンドン議会の役割やロンドン市長の権限等、ロンドン行政の仕組みについては、2015年9月のマンスリートピック「設置から15年を迎えたロンドン議会 ～ その権限、選挙制度、委員会の仕組み、最近の達成事項等 ～ GLAの成り立ちや機能、ロンドン市長の権限なども」で説明している。http://www.jlga.org.uk/jp/monthly_topic/uk_sep_2015_02/

² <https://www.londonelects.org.uk/im-voter/election-results/results-2016>

カーン新ロンドン市長は、ロンドン初のイスラム教徒の市長である。新市長は、ロンドン内の選挙区から選出されている下院議員であったが、当選後直ちに、市長の仕事に専念するため下院議員の職を辞した。さらに、当選の数日後、ロンドン議会のジョアン・マッカートニー議員（労働党）をロンドン副市長に指名した。ロンドン市長は、ロンドン議会議員の中から1名をロンドン副市長に任命することを法律で義務付けられている。

ロンドン議会の選挙結果

また、ロンドン市長選と同日に、ロンドン議会選挙の投票も実施された。ロンドン議会選挙の投票方法には、「小選挙区比例代表連用制（Additional Member System）」が採用されており、全25議席のうち、小選挙区制で14議席が、比例代表制で11議席が選ばれる。今回のロンドン議会選挙の結果は、以下の通りであった³。

| 政党名 | 議席数（括弧内は前回2012年の選挙結果との比較） |
|-------------|---------------------------|
| 労働党 | 12（0） |
| 保守党 | 8（-1） |
| 緑の党 | 2（0） |
| 英国独立党（UKIP） | 2（+2） |
| 自由民主党 | 1（-1） |

今回のロンドン市長選及びロンドン議会選挙の投票率は、45%であった。

新市長は住宅不足への対処や公共交通機関の料金凍結など公約

カーン新ロンドン市長が今回の選挙戦で掲げていたスローガン及びマニフェストは、下記の通りである。

スローガン： 「全てのロンドン市民のための市長（A Mayor for All Londoners）」

マニフェスト：

・より多くの住宅を建設し、新築住宅の50%を真に適正価格の（genuinely affordable）住宅が占めるようにするという野心的な目標を設定することにより、住宅危機に取り組む。

³ <https://www.londonelects.org.uk/im-voter/election-results/results-2016>

- ・市長の任期中を通して、公共交通機関の料金を凍結する。ロンドンのバスに、1時間以内なら無制限にバスを利用できる「ホッパー（Hopper）チケット」を導入する。
- ・ロンドン警視庁の近隣地区治安維持業務（neighbourhood policing）を復活させる。ギャング団やナイフを使った犯罪を取り締まり、過激主義と戦い、消防サービスのリソースを見直す。これらによって、より安全なロンドンを実現する。
- ・これまでで最もプロ・ビジネス（pro-business、企業を支援する）な市長になる。
- ・ロンドンの大気質を安全で合法的レベルに戻す。より環境に配慮した移動を実現し、オックスフォード通りを歩行者専用にする。グリーンベルト（開発規制のある緑地帯）を守る。
- ・新しいエージェンシーとして「ロンドン市民のための職業技術（Skills for Londoners）」を設置する。
- ・低賃金の問題に取り組み、ロンドンを「生活賃金都市（Living Wage City）」にする。
- ・男女間の不平等の解消に向け、男女の給与格差や女性の社会進出が阻まれている問題に取り組む。
- ・自転車利用者と歩行者の安全を確保する。
- ・より公平で寛容なロンドンを実現する。

サディーク・カーン新ロンドン市長の経歴

1970年ロンドン生まれの45歳。両親はパキスタンからの移民で、ロンドン・ワンズワース区内の公営住宅で育った。父親はバス運転手、母親は裁縫の仕事に従事していた。ノース・ロンドン大学（現ロンドン・メトロポリタン大学）及び法律カレッジ（College of Law、現在の名称は University of Law）で学び、1994～2005年、人権問題専門の弁護士として働く。

1994年 — 労働党からロンドン・ワンズワース区の区議会選挙に出馬し、初当選。以後2006年まで、同区の区議会議員を務める

2005年5月－労働党から下院選挙に出馬し、初当選。選挙区はロンドン・ワンズワース区のトゥーティング (Tooting)

2008年10月－コミュニティ・地方自治省 (DCLG) の政務次官に就任

2009年6月－交通担当閣外大臣に就任（議題が自身の担当分野に関係する場合は閣議に出席した）

2010年5月－影の交通大臣に就任（さらに、同年に行われた労働党党首選では、党首に当選したエド・ミリバンド議員の選挙キャンペーンのマネージャーを務めた）

2010年10月－影の司法大臣に就任

2013年1月－影の司法大臣との兼任で、影のロンドン担当閣外大臣に就任

2015年9月－労働党党员による投票で、2016年ロンドン市長選の労働党の公認候補に選ばれる（同じく公認候補に立候補していた元オリンピック担当閣外大臣で元文化・スポーツ・メディア大臣のテッサ・ジョウエル候補を破った。得票率はカーン候補が59%、ジョウエル候補が41%だった）

2016年5月－ロンドン市長に当選。当選後直ちに、下院議員の職を辞する